

3. リエゾンゼミについて知ろう(1) 目的編

1 今日大学を取り巻く環境とリエゾンゼミ

今日、大学のグローバル化とユニバーサル化が世界的に進んでいます。大学のグローバル化とは、さまざまな国の人たちが欧米や日本の大学に留学して学ぶようになった状況をいいます。そこで、皆さんが卒業までに何をどの程度学んだのかを示し、国際的に通用するような質保証をすることになりました。

大学のユニバーサル化とは、大学への進学率が高くなり、大半の人が大学で学ぶようになった状況をいいます。それに伴い、入学者の学力の格差が広がり、授業についていけない学生が増えました。また、将来やりたいことがみつからず、学習意欲が持てない人が増えました。そこで、皆さんが高校の生活・学習から大学での生活・学習に円滑に移行できるように支援することになりました。また、皆さんが意欲をもって学び、将来のキャリアを描くことができるように手助けすることになりました。

以上の状況を踏まえ、中央教育審議会は平成20年12月24日に『学士課程教育の構築に向けて』を答申しました（以下、学士課程答申）。その中に、初年次教育、学士力、主体的学習、キャリア教育が取り上げられています。本学でも、今日の大学を取り巻く環境および学士課程答申を踏まえて、「リエゾンゼミ」を導入しました。

なお、リエゾンとは、フランス語で“つなぎ・つながり”“橋渡し”“仲介”を意味し、「リエゾンゼミ」という名称には、図1の意味合いが込められています^{注1)}。



- 大学生になることへの橋渡し
- 1年次から4年次までのつながり
- 社会とのつながり
- よりよい人生への橋渡し

図1 リエゾンゼミの意味

留学生受け入れ人数

	主要国	日本
1988年	94万	3万
1998年	161万	5万
2008年	207万	12万
2020年	600万	30万

※文科省調べ

※2020年主要国はオーストラリアのIDCによる将来予測

※2020年日本は日本政府が2008年に発表した「留学生30万人計画」による

4年制大学への進学率

	OECD	日本
1995年	37%	31%
2008年	56%	48%

※OECD『図表でみる教育(2010年版)』による

日本の4年制大学のユニバーサル化

日本では2009年に進学率が50.2%になり、マス型大学（進学率15%以上50%未満）からユニバーサル型大学（進学率50%以上）の段階に入りました（マーチン・トロウ『高学歴社会の大学—エリートからマスへ』、東京大学出版会、1976参照）。なお、エリートとは「選り抜き」、マスとは「大衆」、ユニバーサルとは「一般的、誰にでも」の意味。

リエゾン liaison

注1) 学士力では、後述のように、知識・理解（理論知）と社会生活に必要な汎用的技能や態度・志向性（実践知）、それらの統合と創造が求められている。その点から、リエゾンには理論知と実践知のつながりという意味も含んでいる。

2 初年次教育としてのリエゾンゼミ

初年次教育とは、入学した皆さんが大学生になることを支援するプログラムです。大学での生活・学習は高校までの生活・学習とは異なります。そこで、大学生活に適応し、大学における学習方法や学習スキルを習得し、自分や社会について理解を深め、人生やキャリアを考えて学ぶことが必要になります。その機会を提供するのが「リエゾンゼミ」です。

本学の初年次教育

本学では、初年次教育として全国の大学に先駆けて平成 8 年度より少人数クラスによる「人間基礎論」を導入し、成果を上げてきました。その後、学士課程答申を踏まえて、平成 23 年度より「リエゾンゼミ I」として再編しました。

3 学士課程教育としてのリエゾンゼミ

〔1〕 学士力

学士課程答申の中で、大学生が卒業までに最低限身に付ける能力として表 1 の「学士力」が参考指針として示されました。

従来の大学の学びは、「知識・理解」が中心でした。現在は、「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」が加わりました。「リエゾンゼミ」では学士力についての基礎的学習を行います。

学士課程教育

従来は組織を重視して「学部教育」と呼ばれましたが、今は学士の学位を授与する課程を重視して「学士課程教育」と呼ばれるようになりました。

（1） 社会とのつながり

「汎用的技能」は、その説明をみてわかる通り、職業生活や社会生活とのつながりを持った学びです。また、「態度・志向性」においてもチームや社会の一員としての自覚と行動を学ぶことが求められています。本学はもともと社会とのつながりの深い学部を持ち、社会とのかかわりの中で学ぶ機会が多くありました。さらに、学士力を踏まえて、「リエゾンゼミ」では 1 年次から社会とのつながりを意識して学びを深めます。

（2） 1 年次から 4 年次までのつながり

「統合的な学習経験と創造的思考力」の特徴は、1 年次からの学びの積み重ねの統合です。1 年次から 4 年次までの連続性を持った学びが求められています。「リエゾンゼミ」は、1 年次から 4 年次までのつながりを持った学びを実現するための役割を担っています（図 2 参照）。

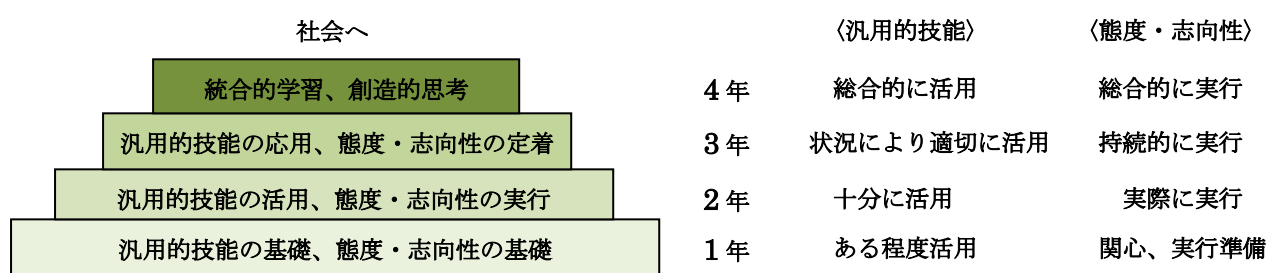


図 2 1 年次から 4 年次までのつながり

表1 各分野を通じて培う学士力

1. 知識・理解

専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解する。

(1) 多文化・異文化に関する知識の理解

(2) 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解

2. 汎用的技能

知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能

(1) コミュニケーション・スキル

日本語と特定の外国語を用いて、読み、書き、聞き、話すことができる。

(2) 数量的スキル

自然や社会的事象について、シンボルを活用して分析し、理解し、表現することができる。

(3) 情報リテラシー

情報通信技術（ICT）を用いて、多様な情報を収集・分析して適正に判断し、モラルに則って効果的に活用することができる。

(4) 論理的思考力

情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。

(5) 問題解決力

問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。

3. 態度・志向性

(1) 自己管理能力

自らを律して行動できる。

(2) チームワーク、リーダーシップ

他者と協調・協働して行動できる。また、他者に方向性を示し、目標の実現のために動員できる。

(3) 倫理観

自己の良心と社会の規範やルールに従って行動できる。

(4) 市民としての社会的責任

社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、社会の発展のために積極的に関与できる。

(5) 生涯学習力

卒業後も自律・自立して学習できる。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

これまで獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力。

〔3〕建学の精神・教育の理念と学士力

「汎用的技能」「態度・志向性」の説明の末尾は、行為動詞です。つまり、学士力が意味するところは、知識・理解にとどまらず、実践の行為を伴う学びであるということです。その点では、本学の建学の精神「行学一如」と軌を一にするものです。

「態度・志向性」の“志”にはもともと世のため人のためという意味があります。そして、「市民としての社会的責任」の説明には「社会の発展のために積極的に関与する」ことがあげられています。その点では、本学の教育の理念「自利・利他円満」と重なるものです。

「リエゾンゼミ」は建学の精神・教育の理念に沿った学びといえます。

建学の精神・教育の理念
テキスト 1 章 1 節「建学の精神と教育の理念を知ろう」参照

〔2〕問題発見・解決型学習 (PBL)

学士課程答申の学士力の中では、「自らが新たな課題を立てて解決する」ことが求められています。そして、課題探求や問題解決の能力を培うには、討論を含む双方向型の授業に参加することと自ら研究に準じる能動的な活動に参加することが欠かせません。

そこで、リエゾンゼミでは、グループによる問題発見・解決型学習 (PBL; Problem Based Learning/Project Based Learning) を積極的に行います。「リエゾンゼミ I」ではそのための基礎的学習を行い、「リエゾンゼミ II」ではその実践的学習を行います。また、専門演習 I・II や卒業論文/卒業研究/卒業制作でも、討論を含む双方向型の授業や研究に準じる能動的な活動を行い、課題探求や問題解決の能力を磨きます。

問題発見・解決型学習(PBL)
少人数のグループで問題を見つけ、自ら調べて考え、グループで話し合い、解決を見出していく学習。シナリオやシミュレーションを用いて課題・解決を探求する事例型、社会におけるビジョンや目標の達成をめざして課題・解決を探求するプロジェクト型などがあります。
テキスト 6 章 5 節「問題発見・解決型学習 (PBL) をやってみよう」参照

〔3〕キャリア教育

学士課程教育には、生涯を通じて必要とされる就業力を育てるキャリア教育も含まれています。「リエゾンゼミ」は生涯にわたるキャリア形成についても支援します。なお、キャリア教育については、「リエゾンゼミ」だけでなく、「キャリア・デザイン」を履修することが望まれます。

キャリア
ももとは「運ぶ(人物)」の意味。そこから、職歴、経歴、職業や生涯に通じる経験を意味するようになりました。



- 大学生活への適応
- 汎用的技能の基礎的学習
- 態度・志向性の基礎的学習
- キャリア形成

図3 リエゾンゼミ I の目的

3. リエゾンゼミについて知ろう(2) テキスト編

1 大学での学習と発達をよりよくするには

〔1〕大学に積極的に関与する

大学生を対象とした調査研究の結果、大学生の皆さんの学習や発達は皆さんが大学に関与する程度（時間、エネルギー、努力）によって影響されることが明らかになりました。つまり、大学の施設・設備をよく利用し、教職員との接触や学生同士のコミュニケーションをよくはかり、課外活動やボランティア活動などをよく行っている人ほど、学習の成果があがり、認知的にも（知識、学習力、思考力など）、情緒的にも（自己概念、人間関係、リーダーシップなど）、よく発達します。そこで、欧米の大学では、教育の双方向化を推進する少人数指導や情報通信技術等が充実し、課外活動や自習を促す施設・設備が整備されています。

「リエゾンゼミ」でも、担任との接触やゼミの学生同士のコミュニケーションをはかりやすいよう、グループで課題に取り組みやすいよう、少人数の構成となっています。また、担任・副担任をはじめとする教員はオフィス・アワー（コミュニケーション・タイム）の時間には研究室に在室し、皆さんからの質問や相談に応じます。ユニバーサル・パスポートのクラスファイルでは、担任に質問をしたり、担任や同じゼミの学生同士でコミュニケーションをはかったりすることができます。

本学ではもともと課外活動やボランティア活動が盛んですが、「リエゾンゼミ」でも課外活動やボランティア活動への参加を奨励しています。ボランティア活動はサービス・ラーニングとして位置づけられています。

学習ホール、美術工芸館や音楽堂など、施設・設備も充実しています。



- 授業（講義、演習、実習など）
- 課外活動、ボランティア活動
- 教職員との接触、学生仲間とのコミュニケーション
- 施設・設備の利用

図1 学習や発達を促すもの

学生関与理論

山田礼子「学生の情緒的側面の充実と教育成果－CSSとJCSSの分析結果から－」、広島大学高等教育開発センター大学論集、40、188-189、2009、野田文香「アウトカム評価としてのインスティテューショナル・リサーチ機能」、立命館高等教育研究、9、125-140、2009を参照。

課外活動

テキスト2章9節「課外活動に参加しよう」参照

ボランティア活動

テキスト2章10節「ボランティア活動に参加しよう」参照

オフィス・アワー

曜日・時間については、ユニバーサル・パスポートで確認するか、各教員に確認してください。

ユニバーサル・パスポート

テキスト1章6節「ユニバーサル・パスポートを活用しよう」参照

サービス・ラーニング

教室での学習とボランティア活動を組み合わせた教授・学習法。本学は平成5年度に日本の大学で初めてボランティア活動に対する単位認定を行った。

美術工芸館

テキスト9章3節「芹澤銈介美術工芸館に行ってみよう」参照

〔2〕学習ポートフォリオを活用する

知識・理解の程度は試験である程度測ることができます。しかし、汎用的技能や態度・志向性がどの程度習得できたかを知るにはどうしたらよいのでしょうか。そのために活用されるようになったのが学習ポートフォリオです。

本学では、学習ポートフォリオとして「キャリアエゾンノート」および「リエゾンファイル」を用意しており、「リエゾンゼミ」でこれを活用します。「キャリアエゾンノート」では、1年次の最初に、今の自分についての自己評価や1年間の目標・計画などを書きます。そして、1年にわたり活動の資料やレポートなどを「リエゾンファイル」に綴じ込みます。1年次の最後に、1年間の授業や活動、努力したことなどを振り返り、授業以外の活動を記録します。それらをもとに、各領域の到達度を評価します。さらに、2年次でやってみたいこと、伸ばしたい資質やスキルを見つけ、ステップアップをはかっていきます。このように目標・計画→実行・実践→点検・評価→改善・見直し（PDCA；Plan-Do-Check-Action）を学年ごとに繰り返すことにより、学びの意欲・姿勢が持続され、大学生活が充実したものとなり、学習と発達がより進むことになります。

ポートフォリオ

もともとは「紙ばさみ」の意味。そこから、芸術家の「作品集」やファッションモデルの「経歴資料」も意味するようになった。教育分野では、学習過程で作成されたさまざまな資料の収集物を意味する。ポートフォリオ評価法は、その収集物を系統的に整理し、教師とともに自己評価を行い、ステップアップをめざす質的評価の方法。

到達度の評価

テキスト1章7節「汎用的技能と態度・志向性の到達度評価」参照

PDCA サイクル

もともとは品質管理の手法の一つ。それが安全管理に使われ、さらにさまざまなマネジメントに広がり、教育にも活用されるようになった。

テキスト8章6節「計画・実行・評価・改善（PDCA）を取り入れよう」参照

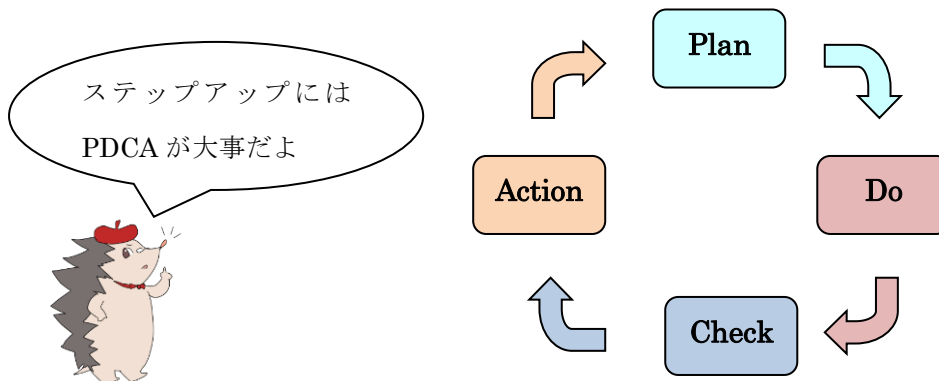
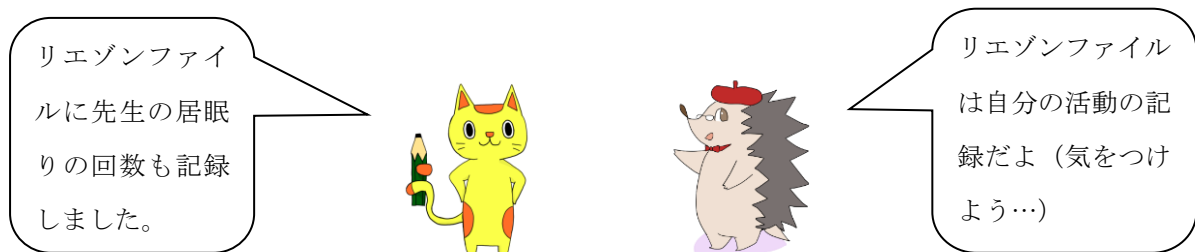


図2 PDCAによるステップアップ



2 『学びとの出会い –リエゾンゼミ・ナビ–』について

〔1〕使い方

「リエゾンゼミ I」のテキストである『学びとの出会い –リエゾンゼミ・ナビ–』は、本学のホームページの「学びの支援」に PDF ファイルで掲載されています。必要なファイルをダウンロードしてお使いください^{注1)}。

注1) 授業で使うだけでなく、独習できるようにもなっています。

〔2〕キャンパス生活・学士力・キャリア形成に対応した構成

テキストの章と節は、目次に示されるように、キャンパス生活と学士力とキャリア形成に対応した構成になっています。

〔3〕学びに対応した構成

テキストの項目は、図3および表1～3のような学びにも対応しています。なお、表中の章節の * の項目は授業関連項目なので、授業前に大学のホームページからダウンロードしておいてください。

テキストの目次

- 1章 学びの基本編
 - 2章 キャンパス生活編
 - 3章 学習スキル編
 - 4章 情報リテラシー編
 - 5章 コミュニケーション・スキル編
 - 6章 問題解決編
 - 7章 チームワーク編
 - 8章 自己管理編
 - 9章 社会・文化編
- ※学習スキル編には、学士力のうちの授業におけるコミュニケーション・スキルと数量的スキルと論理的思考力をまとめている。文化・社会編には、学士力のうちの社会に関連する態度・志向性と文化に関連する知識・理解をまとめている。

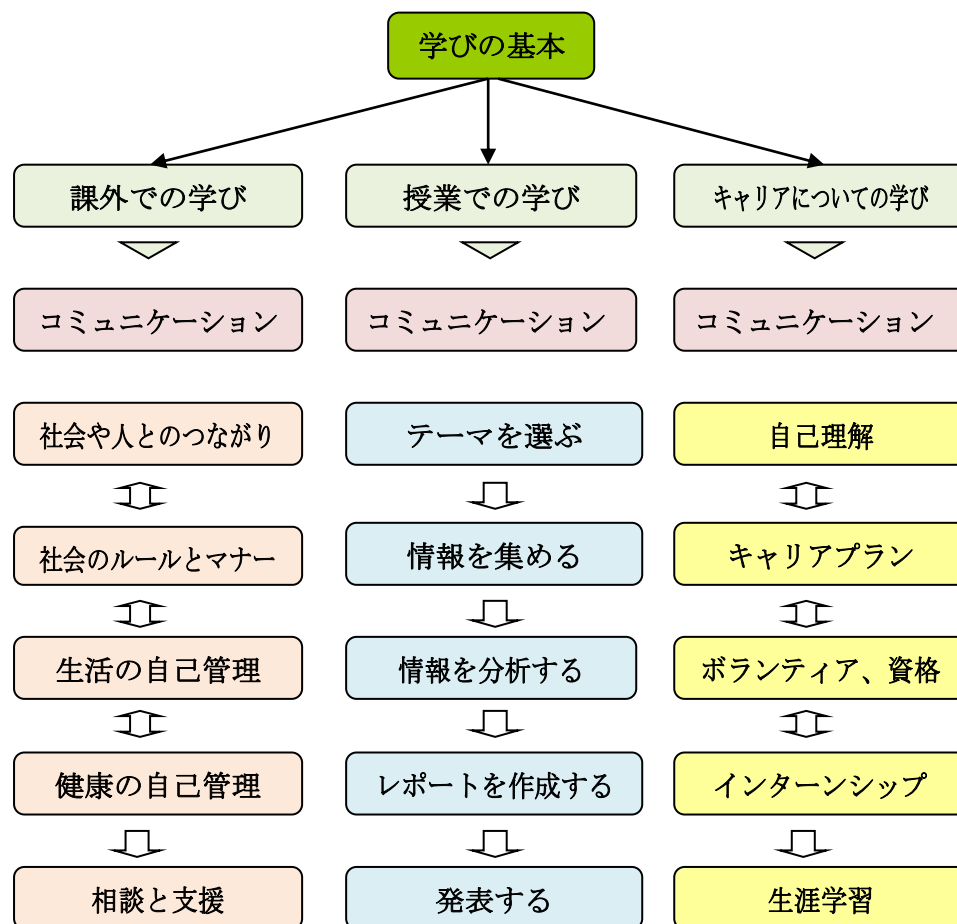


図3 学びの構成

表 1 A 課外での学びと関連する項目

- コミュニケーション
 - 5.1 コミュニケーションの基本を知ろう
 - 5.2 あたたかい言葉をかけてみよう
 - 5.3 頼み事をしてみよう
 - 5.4 断わってみよう
 - 5.5 手紙を書いてみよう
 - 5.6* アイスブレイクをやってみよう
- 社会や人とのつながり
 - ①接する
 - 2.3* 研究室を訪問しよう
 - 9.2 多文化・異文化に目を向けよう
 - 9.3 芹澤銈介美術工芸館に行ってみよう
 - ②参加する
 - 2.9 課外活動に参加しよう
 - 2.10* ボランティア活動に参加しよう
 - 2.8 国際交流センターを活用しよう
 - ③働きかける
 - 7.1 リーダーをやってみよう
 - 7.2 コーチングをやってみよう
 - 7.3 マネジメントをやってみよう
 - ④取り組む
 - 2.11* 地震に対する減災を考えよう
 - 9.4 社会貢献・地域貢献について考えよう
 - 9.5 環境問題について考えよう
 - 9.8 市民としての社会的責任を自覚しよう
 - 9.9 モラルについて考えよう

表 1 B 課外での学びと関連する項目

- 社会のルールとマナー
 - 2.1* キャンパスマナーを身につけよう
 - 2.12 ハラスメントの防止とあったときの対処を考えよう
 - 2.13 強引な勧誘にあったときの対処を考えよう
 - 2.14* 防犯と事故防止に努めよう
 - 2.15* 薬物乱用を防止しよう
 - 4.1 情報倫理を守ろう
 - 9.7 職業倫理を守ろう
- 生活の自己管理
 - 8.3 時間をじょうずに使おう
 - 8.4 手帳をじょうずに使おう
 - 8.5 ビジョンや目標を持とう
 - 8.6 計画・実行・評価・改善 (PDCA) を取り入れよう
- 健康の自己管理
 - 8.1* 病気を予防しよう
 - 8.2* ストレスに対処しよう
 - 2.16* メンタルヘルスと自殺予防を考えよう
- 相談と支援
 - 2.3 研究室を訪問しよう
 - 2.4 保健室を活用しよう
 - 2.5 ウェルネス支援室を活用しよう
 - 2.6 学生相談室を活用しよう
 - 2.7 障がい学生支援室を活用しよう

表 2A 授業での学びと関連する項目

- コミュニケーション
 - 3.1 読解力を高めよう
 - 3.2 作文力を高めよう
 - 3.3 傾聴力を高めよう
 - 3.4 質問力を高めよう
- テーマを選ぶ
 - 3.5* 講義ノートをつくろう
 - 2.3* 研究室を訪問しよう
 - 9.1 教養（リベラル・アーツ）を高めよう
 - 9.2 多文化・異文化に目を向けよう
 - 9.4 社会貢献・地域貢献について考えよう
- 情報を集める
 - ①1 次情報
 - 3.14* フィールドワークをやってみよう
 - 3.15* ヒアリング調査をやってみよう
 - 3.16 アンケート調査をやってみよう
 - ②2 次情報
 - 2.2* 図書館を活用しよう
 - 3.6* 情報を検索して集めてみよう
- 情報を分析する
 - ①論理的に考える
 - 3.7 論理的に考えてみよう
 - 3.13* ディベートをやってみよう
 - ②数量的に考える
 - 3.8 表やグラフや図を用いて考えてみよう

表 2B 授業での学びと関連する項目

- 情報を分析する
 - ③体験的に考える
 - 3.11 ワークショップをやってみよう
 - 3.12 ロールプレイをやってみよう
 - ④問題を発見・解決する
 - 6.1* ワールドカフェをやってみよう
 - 6.2* ブレインストーミング（BS）をやってみよう
 - 6.3 マインドマップをやってみよう
 - 6.4* KJ法をやってみよう
 - 6.6 ロジックツリーで考えてみよう
 - 6.7 フレームワークで考えてみよう
 - 6.8* チームで問題解決に取り組んでみよう
 - 6.9 ファシリテーターの役割を知ろう
- レポートを作成する
 - 3.9* レポートを作成してみよう
- 発表する
 - 3.10* プレゼンテーションをやってみよう
- 統合的学習
 - 6.5* 問題発見・解決型学習（PBL）をやってみよう

表3A キャリアについての学びと
関連する項目

- コミュニケーション
 - 3.1 読解力を高めよう
 - 3.2 作文力を高めよう
 - 3.3 傾聴力を高めよう
 - 3.4 質問力を高めよう
 - 5.1 コミュニケーションの基本を知ろう
 - 5.2 あたたかい言葉をかけてみよう
 - 5.3 頼み事をしてみよう
 - 5.4 じょうずに断わってみよう
 - 5.5 手紙を書いてみよう
 - 5.6* アイスブレイクをやってみよう
 - 9.2 多文化・異文化に目を向けよう
- キャリア形成関連の活動
 - 2.9 課外活動に参加しよう
 - 2.10* ボランティア活動に参加しよう
 - 2.8 国際交流センターを活用しよう
 - 9.4 社会貢献・地域貢献について考えよう

学んで何
ですか？



『教えることは希望を語ること、学ぶとは誠実を胸に刻むこと』(ルイ・アラゴン) というよ。あなたはどんな誠実に出会い、胸に刻むかな？